

「読みやすい」「わかりやすい」紙面を どうしたらつくれるか。

『育て！プリントコミュニケーション』コンクールの優秀作品には、共通した「読みやすさ」が見られます。その共通点から、読みやすい通信、理解されやすい通信をつくるにはどうしたらよいか、レイアウト、文章構成の両面から、シリーズで考えます。第1回は「レイアウト」全般の留意点です。

1 見出し

記事を通していちばん伝えたいポイントを見出しとして訴える。長い記事にはさらに小見出しを入れる。

2 タイトルまわり

通信名の近くに、発行年月日・発行人・発行号数などを入れる。

身につけておきたい 紙面レイアウト 7つのコツ

3 写真・イラスト

写真やイラストは紙面を生かすアクセント。写真を複数入れる場合、すべてを同じ大きさにせず、変化をつける。
※できればキャプション（簡単な説明）をつける。

4 一行の文字数

記事の全体の長さ、一つの文章の長さに配慮する。特に、一行の文字数が長いレイアウトは、読みにくい。各行の文字数に配慮を。

5 記事の境界

記事と記事がくっついて境界がわからないと読みにくい。ラインで仕切ったり、余白をつくったりして、一つの記事のかたまりを明らかにする。

※ファイリングのためにも周囲に十分な余白をとることは大切。

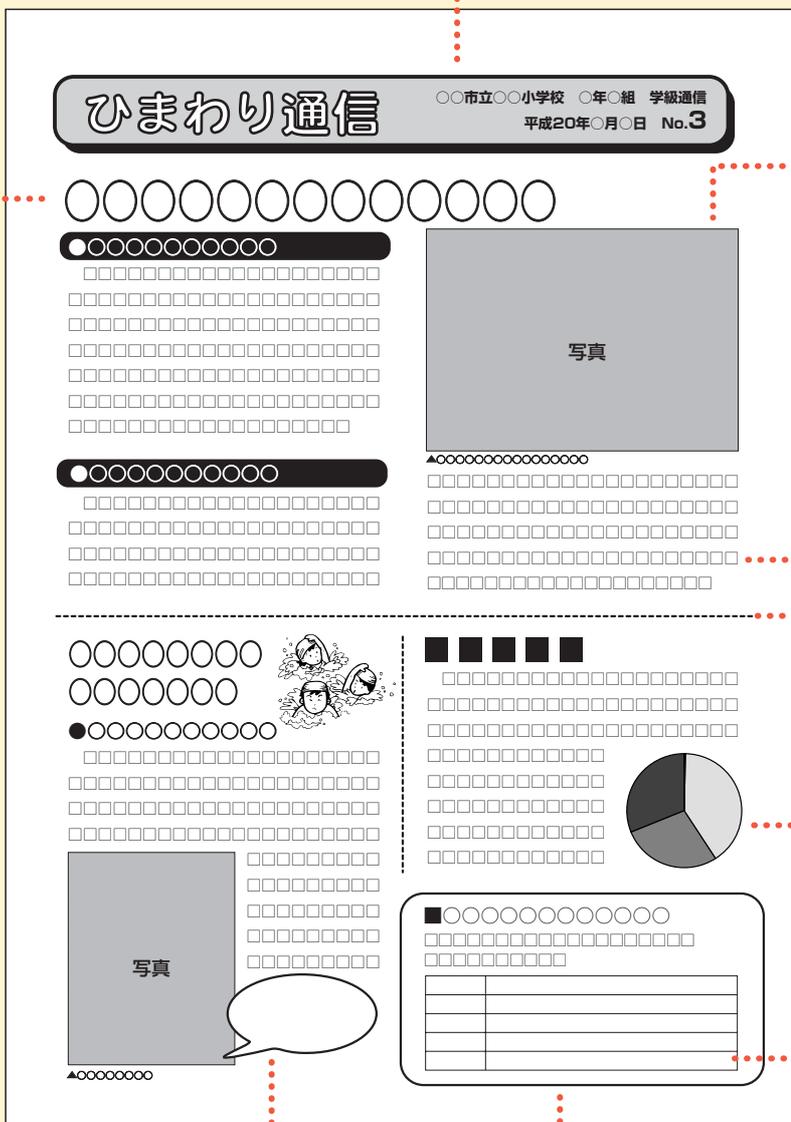
6 表・グラフ

統計などを説明する際に、数字を文章に折込むよりは、データを表やグラフにすると、ひと目で理解されやすい

7 囲み記事、吹き出し

エピソードや、注意を引きたい記事、行事などは囲みにして、紙面に変化をつける。また、吹き出しを記事や写真につけてポイントを強調するとアクセントにもなり、情報が伝わりやすい。

ここではA4の学級通信のモデルを紹介しています



●参考のために、第3回「育て！プリントコミュニケーション」コンクールの入賞作品から、読みやすい紙面の通信を選びました。



●学校だより『不撓不屈』（沖縄県・金武中学校）
「見やすく、躍動感がある」「欄外は教育目標、行事の予告などを入れて活用」（鈴木伸男審査委員）との評。表組み、イラストも効果的に使用しています。



●学級通信『花鳥風月』（兵庫県・加古川中学校）
「基本を踏まえた割り付け、迫力ある見出し」「読み手を紙面にひきつける」（鈴木伸男審査委員）の評。吹出しやイラストも効果的です。



●学校だより『とうだい』（大分県・姫島小学校）
レイアウトが「変化と安定感に富み、読みやすい」（吉成勝好審査委員）の評。3枚の写真も大きさを変え、表組み、見出しもすっきりしています。

すっきり感を出すためには

- 通信を手を取ったとき、「読みやすいな」と感じるケースの共通点は、まず、紙面のレイアウトがすっきりしていることです。このすっきり感には、
- ①記事に見出しがある。見出しの大きさと書体の違いなどで、記事の重要性の順位がひと目でわかる。
- ②長い記事には小見出しが入っている。全文を読まなくとも、見出しや小見出しで内容がほぼ理解できる。
- ③一行の長さ（文字数）が適当で、容易に文章を追うことができる。
- ④余白やラインによって、それぞれの記事のかたまりがひと目でわかる。

記事も文字も詰め込みすぎず

- ⑤囲み記事や写真、イラストが効果的に使われて、紙面に変化があります。などの要素があります。
- ①②の見出し、小見出しは、読みやすさ、理解しやすさの基本です。読者は記事のすべてを読むわけではありません。「見ただけで、ある程度、内容を理解して貰う」姿勢で、見せ方に工夫をする必要があります。
- ③の一行の文字数への配慮は、一般に最も欠けている傾向があります。文章を容易に追えないほど長いケースもあります。一行は20字前後で構成する配

慮が必要でしょう。

- ④⑤は読者を混乱させない配慮です。隣の記事との境界がわからない記事は、読者に苛立ちや苦痛を感じさせます。
- 全体の記事を隙間なく詰め込むことはせず、適度な余白をつくることは大切な配慮です。そのためには、まず採り上げる記事を吟味し、選択することが大切になります。
- このほか、書体（明朝体、ゴシック体など）の選択も読みやすさと大きく関連します。好みもありませんから、いろいろと試してみることも必要でしょう。
- また、通信はファイルして残すことが多いので、右または左側には綴じ込みの穴をつくれるスペースを忘れずに。